

リーディングセミナー オーガナイザー報告書

氏名・学年	山口 智之・博士課程 3 年
セミナー名	第 13 回リーディングセミナー
開催日時/場所	2015 年 7 月 6 日 15:00/獣医学研究科講義棟 講堂



講演 タイトル	Response to HIV and emerging infectious diseases: Experiences in Viet Nam
講演者名	Dr. Masaya Kato (加藤 昌哉先生)
職名/所属/国	Communicable disease group coordinator, World Health Organization Representative Office in Viet Nam

招聘経緯・理由	招聘理由 1. 加藤先生とは昨年のベトナム出張の際に直接話をすることができ、先生の豊富なご経験を交えたご講演を拝聴したいと感じた。 2. 過去のリーディングセミナーでは大学や研究機関からの招聘が多く、国際機関について知る機会が比較的少ない。 3. WHO の活動に対し個人的に関心があった。 招聘にあたって WHO での活動経験があり加藤先生とも繋がりのある磯田准教授（人獣共通感染症リサーチセンター 危機分析・対応室）にご助力を頂きコンタクトをとった。またセミナー進行についての相談や、当日の進行にもご協力を頂いた。	
セミナー、質疑応答について	当日のプログラム進行 2 つのトピックについて質疑応答を含めそれぞれ約 60 分、計 120 分。 質疑応答 予定時間を超過したが、活発なディスカッションが行われていたこと、また参加者の注目度が非常に高い様子が見受けられたことから、プログラムを変更し可能な限り続行した。	
セミナー外の活動	・ 人獣共通感染症リサーチセンター内の案内 ・ 人獣共通感染症リサーチセンター 喜田統括との面談 ・ 獣医学研究科・人獣共通感染症リサーチセンターの教員との面談 ・ セミナー後の交流会	
反省点・感想等	当日のプログラム変更について 計画していたパネルディスカッションが前述のプログラム変更により中止となったが、この点に関しては良い判断であったと自省する。結果的に参加者からの質問に対して加藤先生から丁寧なご回答を得ることができた。 当日のスケジュールについて セミナーの直前まで面談を行っており、これによりセミナー開始時間が遅れてしまった。また、セミナーについての加藤先生との確認が不十分であったためにセミナー開始前に説明が必要になり、さらに時間を費やしてしまった。スケジュールには十二分な時間的余裕を持つべきであり、また講演者との確認事項を入念にチェックし事前に解決すべきであった。 セミナー運営を経験して 当初は計画の仕方そのものや運営のイメージがつかめず不安な点がとても多かったが、一つ一つ進めていくことで当日には自信を持って進行することができた。運営側と講演者の意図とを合わせて計画し当日の聴衆の関心も組み込んでいくことの難しさ、そして実施できたことの達成感を理解できたことは大変貴重な経験であった。これは今後再び運営する機会を得たときも、また発表する側として参加する際にも活かせるものであると感じる。	